

## 高岡厚生センター運営協議会

日 時 令和7年10月16(木) 14時～15時15分  
場 所 高岡エクール 2F 201・202号室  
出席者 委員18名 代理3名 (委員25名中)  
県 厚生部理事、高岡厚生センター所長ほか

- 1 開 会
- 2 あいさつ (厚生部理事)
- 3 報告事項  
(1) 高岡厚生センター事業の概要について  
(2) 高岡医療圏における働き盛り世代の健康づくり支援について
- 4 意見・質疑応答
- 5 閉 会

### 【意見・質疑応答の概要】

- 委 員 近年、診療所の廃止が増えていると感じるが、高岡医療圏ではどのような傾向にあるか。
- 事務局 全国的には医師の高齢化により、廃止や休止が見られるが、一方で若手医師の新規開業もある。  
高岡医療圏では、廃止の増加に伴う診療所の明確な減少傾向は認められない。
- 委 員 県西部では看護・介護系学校が少なく、定員割れが顕著である。介護系学校の中には廃止の懸念もある。医療・介護分野の人材確保に向け、どのような方策があるか。
- 事務局 医療機関等との意見交換では、①人材の高齢化が進む中で体制維持がぎりぎり、②新規採用が難しい、③外国籍介護士の雇用で人員を補っている、との声が多いと感じている。  
給与・処遇改善などは国の検討も必要であり、待遇面の課題が大きいと認識している。
- 委 員 人口減少に伴い、医療職を志す学生が減っており、県内のエッセンシャルワーカー確保には対応が必要と考える。

- 委員 若手人材の確保には、実習などを通じて職場の雰囲気を変え、やりがいを感じてもらうことが重要である。
- 委員 公的病院以外や僻地の医療機関では採用が厳しいと聞く。特に富山県では、女性の県内定着率が低く、看護学生が都市部に就職する傾向がある。県内医療機関の魅力向上を図り、地元就職を促す取り組みが必要ではないか。
- 委員 介護現場では外国人職員が増加しているが、ケアマネージャーの不足が深刻化している。介護職には処遇改善加算があるが、ケアマネにはないため、改善が必要と感じている。
- 委員 健康づくりなどの施策が進められていることを踏まえ、企業経営者としても情報を共有し、従業員の健康増進に取り組みたい。
- 委員 脳血管疾患の標準化死亡比（SMR）が県内で西高東低となっている。要因をどのように分析しているか。
- 事務局 富山県はもともと脳血管疾患による死亡率が高く、特に県西部で高い理由については明確ではない。メタボや高血糖といった動脈硬化のリスクの割合が高いことは関係がありそうである。また背景として、車社会による運動不足、野菜摂取の少なさ、塩分摂取過多などは県内同じ状況だと考えられる。
- 委員 県西部の死亡率が高いのは、医療資源の偏在による影響ではないか。
- 事務局 今後、心血管疾患関連の医療データを分析する機会があるので、医療資源の偏在の影響が確認できれば、必要な対策は関係者等と共に考えていきたい。
- 委員 被用者の特定健診受診率は高いが、国民健康保険加入者では低い。どのような施策を考えているか。
- 事務局 保険者間で受診率に差があり、国保の受診率が最も低い。勤務中に健診を受けていた人が退職後に新たな保険制度へ移行した際、受診につながらないことが課題である。今後は、保険移行時から継続して健診を受けるよう、周知を強化する必要がある。